

# 7 課

11月14日

## 教育における礼拝



安息日午後 11月7日

### 暗唱聖句

御名の栄光を主に帰せよ。供え物を携えて御前に近づき／聖なる輝きに満ちる主にひれ伏せ。(歴代誌上 16：29、新共同訳)

そのみ名にふさわしい栄光を主に帰せよ。供え物を携えて主のみ前にきたれ。聖なる装いをして主を拝め。(歴代志上 16：29、口語訳)

### 今週の聖句

ダニエル 3 章、黙示録 14：6～12、詩編 78：1～17、ヨハネ 4：7～26、  
歴代誌上 16：1～36、マルコ 7：1～13

### 今週のテーマ

礼拝は人間の一部であり、墮落してはいるものの人間性の一部です。疑いもなく、私たちは、神から与えられた自由によって主を礼拝する存在として創造されました。なぜなら、私たちは主を愛しており、礼拝に値するお方であることを知っているからです。そのような礼拝は、罪に墮ちる前の世界では極めて容易だったにちがいません。そこでは、罪、死、破壊によって損なわれていない被造物（墮落した世界しか知らない私たちには、ほとんど想像のできない被造物）の中で、人間が直接神に近づくことができました。

もちろん今日でも、私たちの中に、礼拝に対する生まれつきの欲求は存在しますが、それは、この世のその他もろもろと同じように、罪によってねじ曲げられ、ゆがめられています。つまり、礼拝する存在としての私たちは、結局、間違ったものを礼拝したり、主を礼拝すべき方法で礼拝しなかったりすることになるのです（例えば、マコ 7：1～13、エレ 7：4 参照）。

このように、礼拝はクリスチャンの体験にとって極めて重要なものなので、キリスト教教育は、今週の研究の主題でもある礼拝の問題を扱わなければなりません。

私たちの中には、礼拝することを切望する何かがあります。疑いもなく、それは神によって私たちの中にもともと埋め込まれたものですが、ほかのあらゆるものと同様、罪によってゆがめられてしまいました。明らかに、私たちは最初、礼拝を受けるに値する方、私たちの主なる創造主を礼拝しなければなりません。しかし罪に堕ちてからというもの、このことはすっかり、しかも大きく変わってしまいました。

確かに私たちはみな、何かを、だれかを、それが何であれ、礼拝しています。このことは、人類史を通じてずっと、そして現代においても、なぜ人間が礼拝を行うのかを説明するのに役立ちます。古代エジプトには、ファラオを礼拝する人たちがいました。別の時代の別の場所では、魚の像、多頭神、神と思われるそのほかの物を、人々は礼拝しました。太陽、月、星を礼拝する人々もいました。

今日、たいていの人は教養がありすぎて、かえるの像の前で頭を下げたりしません（マリアの像には頭を下げます）。このことは、像に頭を下げない人が——金、権力、性、自分自身、ロックスター、俳優、政治家など——を礼拝しないということを意味するものではありません。私たちが最も愛し、最も注意を向けて生きていること、それこそが私たちの礼拝しているものなのです。そして、非宗教的な著述家デイビッド・フォスター・ウォレスは、もし間違ったものを礼拝するなら、それは「あなたを食い物にするだろう」と警告しています。

### 問1 ダニエル3章の物語は、真の礼拝の大切さについて、どのようなことを教えていますか。

明らかにユダの3人の青年は、神が意図されたように、第二の掟（出20：4～6）を真剣に受け止めていました。何しろ、それは十戒の一部であり、殺人、盗みなどの禁止と肩を並べているのですから……。礼拝、適切な礼拝は、とても重要です。実際、それが終末時代（イエスの再臨の前）の諸問題の中心になります。従って、キリスト教教育は、礼拝に関するあらゆる問題を含む必要があります——礼拝とは何か、私たちはどのように礼拝すべきか、礼拝はなぜ重要なのか、私たちはだれを礼拝するかといった問題です。

黙示録14：6～12を読んでください。これらの聖句は、キリストの再臨前の終末の危機において、礼拝の問題がいかに中心となるかについて、どのようなことを教えていますか。

旧約聖書の詩編は、古代イスラエルの宗教生活の中で一つの役割を果たすようになりました。詩編は礼拝の時間に、とりわけ公同礼拝（共に集まる礼拝）の中で朗誦され、しばしば楽器とともに歌われました。公同礼拝は、旧約聖書において、人々が一般的な礼拝をする際の方法でした。イスラエルは共同体として機能し、共同体として一緒に礼拝したのです。

詩編は基本的に詩であり、歌詞です。詩編に相当するヘブライ語「テヒリーム」は、「賛歌」を意味します。そして、神に賛歌を歌うとき、ほかにどんなことをしながらであろうと、私たちは主を礼拝しています。

**問2** 詩編 78：1～17 を読んでください。ここでの最も重要なメッセージは何ですか。それは、教育と礼拝に関するあらゆる問題と、いかに当てはまりますか。

詩編 78 編のメッセージには、ある種の決意があります。作者のアサフは2節で、私たちがいかに「昔からのなぞ」（新改訳）を伝えていくかに言及しています。この「なぞ」という言葉〔英訳聖書では“dark saying”〕は、「不吉な言い伝え」を意味するのではなく、むしろ「おぼろげな（薄れていく）言い伝え」を意味します。歴史上の重要な出来事をどんどんさかのぼると、歴史が薄れていくようにです。別の翻訳では、「いにしえから隠されていたこと」とか、「昔からのなつかしい真理」となっています。ここでの要点は、イスラエルの教育にどのようなものがほかに含まれていたとしても、選ばれた民に対する神の扱いについての物語を子どもたちに教えることが、そこには含まれていたということです。

**問3** 詩編 78：6～17 を読んでください。彼らが子どもたちに教えるべき具体的な教訓は何でしたか。このような教育の最終目的は何でしたか。

先の聖句にも見られるように、教育の目的の中には、子どもたちが神を信頼し、神の戒めを守ることを身につけることが含まれます。黙示録 14：12 のような聖句は、現代の私たちにとって、その同じ考えをどのように反映していますか。

傷ついた魂をイエスがどのように助けられたのかという、新約聖書の中の最もすばらしい記事の一つが、井戸のほとりでのイエスと女の物語です。

**問4** ヨハネ4：7～26を読んでください。礼拝について、イエスは彼女に何と言っておられますか。イエスと女はどのようにして礼拝を話題にしたのですか。

彼女は、礼拝について語ることで話題を変えようとしたのですが、イエスは彼女のその作戦を用いて、礼拝と礼拝に伴うことに関する深い真理をいくつか私たちに伝えてくださいました。私たちの当面の目的にとって最も重要なのは、たぶんイエスがヨハネ4：24で言われたことでしょう——「神は霊である。だから、神を礼拝する者は、霊と真理をもって礼拝しなければならない」

主に対する真の礼拝は、「霊……をもって」なされなければなりません。つまり、それは、神への愛、神を個人的に知る経験から生じなければならないのです。「神から出ている宗教だけが神へいたる宗教である。神に正しく仕えるためには、神のみたまによって生まれなければならない。みたまは心をきよめ、思いを新たにし、神を知り愛する新しい能力をわれわれに与える。それは神のすべてのご要求によるこんで従う心をわれわれに与える。これが真の礼拝である。それは聖霊の働きの実である」(『希望への光』759ページ、『各時代の希望』上巻224、225ページ)。

同時に、礼拝は「真理をもって」なされなければなりません。私たちは、神について、神がどのような方であるかについて、神が私たちに何を求めておられるかについて、正しい知識をいくらか持っていなければなりません。言い換えれば、教理も伴うということです。例えば、私たちが礼拝する方は、人々を地獄の火で永遠に焼くような神ではないと知ることは、なんと意義深いことでしょう。

このように、私たちは礼拝に関する二つの要素をここに見ます——神を知り、神に従うことによってもたらされる経験と、神について私たちに啓示されている客観的真理の二つです。真理のない霊は、何よりも気まぐれな感情に基づく浅はかな感傷的傾向をもたらすことがあり、一方、霊のない真理は、死んだような形式主義をもたらす可能性があります。それゆえ、私たちは両方を必要とします。

あなたなら、「霊と真理をもって」礼拝するということを、どのように教えようとするでしょうか。どのような場合に、どちらか一方をより強調する必要がありますか。

問5 歴代誌上16:1~36を読み、その場면을思い描いてください。あなたが想像するのは、厳かで恐ろしげな場面ですか、それとも陽気で楽しい場面ですか。どうしたら、その両方が混じり合った場面になるのでしょうか。礼拝について、私たちはこのような場面から何を学ぶことができますか。また、私たちはいかに礼拝を体験し、教えるべきですか。

礼拝の場所は天幕でした。そこは、神が古代イスラエルとともに住み、救済計画が彼らに啓示されていた場所です。従って、礼拝と礼拝教育の中心を成すべきものは、イエスと救済計画であり、それらすべてが天幕の礼拝の中に予示されていました。賛美と礼拝を受けるに値することを神がほかにもしてくださったにしろ、十字架におけるイエスの犠牲的身代わりの死によって私たちに与えられる永遠の命の希望がなければ、すべては何の意味もありません。

また、「伝道的な」趣旨の言葉にも注目してください——全世界はイスラエルの神について知るべきでした。

問6 歴代誌上16:29を読んでください——「御名の栄光を主に帰せよ。供え物を携えて御前に近づき／聖なる輝きに満ちる主にひれ伏せ」。「聖なる輝き」とは何ですか。それはどういう意味でしょうか。

まず、罪がいかに醜く、有害で、下劣なものであるか、考えてください。また、現代の私たちにとって、イスラエルの周辺諸国が行っていた礼拝儀式がどれほど不道德で、悲惨で、下劣なものであったのかを想像することは、容易ではありません。その儀式には、こともあろうに、子どもを犠牲としてささげることも含まれていました。そして疑いもなく、こういったことは、それを行う人々がどういう人々であったのかを反映していたのです。

それとは対照的に、古代イスラエルは、周囲の悪しき習慣から離れて聖なる国民になるべきでした。彼らは、心も思いも聖くならなければなりません。そのことが彼らの礼拝に意味と、神の前における輝きを与えたのです。旧約聖書の預言者たちは、主を礼拝する一方で、腐敗に携わり、主から心が遠く離れた人々を何度も何度も激しく非難しました。

古代イスラエルは、非常に宗教的な人々に囲まれていました。彼らは、自分の子どもたちでさえ犠牲としてささげるほど、神々を拝み、神々の怒りをなだめていたのです。それも献身ではないでしょうか。

そういうわけで、礼拝、真の神に対する真の礼拝は、ヘブライ人が偶像崇拜や周囲の偽りの礼拝に巻き込まれるのを防ぐうえで、重要な部分でした。しかし、あらゆる警告にもかかわらず、彼らは、具体的に警告されていた偶像崇拜の儀式をするようになりました。

今日の私たちはどうでしょうか。真の神を礼拝すること、神が私たちのためにしてくださったあらゆることを数え上げることは、なぜ（とりわけ、現代の偶像崇拜の危険に直面する中で）重要なのですか。

**問7** マルコ7：1～13を読んでください。私たちは7節から9節の中に、キリスト教教育と偽りの教えの危険性との関連で、現代に適用できるどのような原則を見いだしますか。偽りの教えは、この世から取り出され、私たちの信仰の習慣に否定的影響を与えうるものです。

現代世界において、偉大な知的概念（考え）の多くは、実在についての自然主義的な見方に基づいています。今日、学校で勉強する多くの生徒は、そのような観点から学ばされており、それはしばしば、教えられていることが聖書とは矛盾していることを意味します。自明のこととされ、論理化され、実践されている考えを崇拜するよう、誘惑される可能性があります。私たちはまた、こういった考えを生み出した哲学者、科学者、数学者たちの才気を神格化する可能性もあります。問題なのは、このような考えがしばしば聖書と異なるにもかかわらず、今現在、それらが本当であると教えられ、信じられているので、人々がそれをキリスト教育に取り入れようとすることです。しかし、それがなされる唯一の方法は、真理を妥協させることです。それはしばしば、聖書を現在の考えに合わせようとして、聖書をねじ曲げ、ゆがめることを意味します。

現在、一般的に信じられていることで、聖書と異なるものには、どういうものがありますか。私たちは教会として、それらを私たちの教育制度に取り入れないよう、どうしたら身を守ることができますか。

「人の心は何にも増して偽りに満ち、非常に悪いものです。信心を公言する人たちは、自分たちが果たして信仰を持っているかどうかを知るために、自分自身を厳密に吟味しようとする気がありません。こうして多くの人々が偽りの希望に寄りかかっていることは、恐ろしい事実なのです。ある人たちは自分の昔の経験に頼っていて、すべての人が日ごとに経験すべき、この心を探る時がもたらされたとき、彼らはまったく関わらないのです。彼らは、真理を公言することによって救われると考えているようです。神が憎まれるこれらの罪を彼らが征服するとき、イエスはおいでになって彼らと食を共にし、彼らは主と共にいることとなります。そのとき、彼らはイエスから神の力をいただき、イエスにあって成長し、聖なる勝利を得て、次のように言うことができるでしょう。『わたしたちの主イエス・キリストによってわたしたちに勝利を賜る神に、感謝しよう』（1コリント15の57）と。信心のなまぬるい公言者が、むしろ主のみ名を名乗らなかったほうが、主にとっては喜ばしいことであつたでしょう。イエスに忠実に従う人たちにとって、彼らは絶えざる重荷となっています。未信者にとって、彼らはつまずきの石です。悪天使たちは彼らに対して勝ち誇り、彼らのひねくれた歩みについて神の天使たちをなじります。このようなことは国内外で、み業にとって忌まわしいことです。彼らは口先では神に近づきますが、心は神から遠く離れているのです」（『教会への証』第1巻分冊1、196、197ページ）。

### 話し合いのための質問

- ① 私たちはマルコ7:1~13から、偽りの礼拝の基礎疾患が心の問題であることを学びました。神は、私たちの礼拝が心から湧き出ているものでないとしたら、口先だけの礼拝をお認めになりません。福音と、私たちの身代わりとなられたイエスの死の物語は、なぜ神を心から愛するように心を開かせる最も効果的な方法なのか。
- ② 「霊と真理をもって」神を礼拝するということについて、さらにじっくり考えてみてください。どちらか一つだけを実行することは可能でしょうか。それとも、真の礼拝は両方を求めるのでしょうか。もうしそうであれば、なぜですか。
- ③ 確かに、神を心から礼拝するためには、私たちの心が正しくあらねばなりません。しかし、それはどういう意味でしょうか。あなたが礼拝できるようになるには、主に完全に結ばれ、生活が完璧な状態になるまで、待たなければなりません。一方、礼拝、真の礼拝は、あなたの心を神に対して正しく整えるのに、どのように助けとなりえますか。